

社会科学研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
	1年次	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	3年次 編入学	若干名 ()	1 (-)	2 (5)	1 (-)	2 (5)	1 (2)	1 (-)	- (2)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	9(9)		9(6)		-(1)		-(6)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	-(1)			-(-)			-(-)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	2 (2)	1 (-)	- (1)	- (-)	6 (3)			
	退学者	- (-)	- (2)	1 (1)	- (1)	1 (2)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・()は前年度の数値を、 は外国人留学生を内数で示す。

1 社会科学研究科の活動

平成13年度に、文系5研究科の改組・再編が実現し、哲学思想、歴史人類、文芸言語、社会科学、国際政治経済の5研究科を再編し新たに人文社会科学研究科がスタートした。新研究科においては新たに6専攻が設置され、社会科学研究科は社会科学専攻（法学・経済学・社会学分野）として教育研究を行うとともに、新研究科は新たに部局として位置付けられ、本学が大学院を重視した教育研究組織として発足した。新研究科は新たに新専攻（現代文化・公共政策専攻）を設置し、社会科学研究科からも政治学専攻の全教官と社会科学専攻の1名の教官が参加して、現代文化の教官と協力して、より高い視点とグローバルな視野をもった人材の教育を進めることになった。これに伴い社会科学研究科は、現在在籍する院生が課程修了するまでの間、独自の教育研究活動を行うこととなった。特筆すべきは、学位取得者が著しく増加したことである。

2 教員の教育業績評価の状況

各専攻・分野により学問的伝統が異なるため、統一的な教育業績評価の基準の成案を得るにはいたらなかった。しかしながら、指導学生数、指導学生の論文執筆状況、指導学生の学位取得状況などを総合的に判断し、人事などに反映させるよう配慮した。

3 自己評価と課題

- (1) 大学院の大型化の検討に対応させて、今後のカリキュラムの方向性などについて検討を続行している。
- (2) 大型化に伴い、課程修了と学位取得者の増大に一層の努力を払った。その結果、各専攻・分野において博士学位取得者が増加しつつあり、特に中間評価論文の執筆状況は大きく改善された。その関連で発表論文数も増加した。
- (3) 学位未取得教官の学位取得の促進についても更なる努力を払い、成果を得ることができた。
- (4) シラバスの検討も続行しており、優秀な外国人教師を導入し、教育・研究の活性化を図った。
- (5) 留学生についての研究及び生活指導の強化をさらに図りつつありチューターの指導を強化している。また、T・Aの活動は積極的であり、さらに有効活用できるよう検討しつつある。